



生駒市立鹿ノ台小学校

鹿小だより



鹿小ホームページ

令和 7年 9月 8日

第 10 号

全国学力・学習状況調査の結果について1

今年4月に実施された全国学力・学習状況調査の結果が7月末に発表されました。本校と奈良県、全国の平均正答率(%)は表のとおりです。

今回、文部科学省は報道各社に対し、「調査の成果や課題などに関する報道をお願いしたい」と異例の呼びかけをしています。何かと平均正答率や都道府県別等の順位が話題

	本校	生駒市	奈良	全国
国 語	69	72	67	66.8
算 数	68	64	58	58
理 科	62	61	57	57.1

《全国以外は、四捨五入の数値で提供》



にのぼることが多い学力調査ですが、

児童の学力の課題を分析し、よりよい指導へ繋いでいくことが目的です。

今年度の結果を見ながら、子どもたちにつけたい学力が何で、本校はどんなところが苦手なのかを考え、今後の指導に活かしていきたいと思います。

【国 語】

《結果の概要》

- (1) 国語全体の平均点では、本校は全国平均、奈良県平均を上回りました。しかし、全国的に、「根拠を明確にして書くこと」が苦手で、本校も同様の傾向が見られました。
- (2) 全国的に、前年度と同じく学習指導要領が重視する「思考・判断・表現力」を測る設問、特に記述式の問題で平均正答率が低くなる傾向にあり、本校においてもその点でも同様です。
- (3) 選択式と短答式では、全国平均と比べて高い正答率となる傾向がみられるが、記述式では全国平均と変わっていません。目的に応じて、的確に書いて表現することが苦手な傾向は例年と同じでした。

【目的に応じて文章と図表などを結び付け、必要な情報を見付けることが課題】

今回、「思考・判断・表現」を問う記述式は、2種類出題されました。

A 目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように詳しく書く力を問う問題と

B 目的に応じて文章と図表を結び付け、必要な情報を見付けて理由をまとめて書かせる問題 です。

平均点では、**A**「自分の考えが伝わるように詳しく書く」ことはできていますが、**B**「文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けて」理由を書いたり説明したりすることに課題が見られました。令和5年度の調査と同様の傾向です。





Bが出てくる問題は、言葉の変化について調べて分かったことをまとめる学習の場面で文章資料3つ、グラフ資料1つ、それに加えて「木村さんのメモ」が提示されています。`木村さん、が納得したことをあなたが`木村さん、なら、どのように記述するかが問われました。

【複数の資料を読み込み、記述するのは苦手な子も】

本校の無解答率が25%と全国（16%）と比べて少し高いことから、複数の異なる資料を読み込み、その中から目的にあった情報を取り出して、互いに結び付けながら記述することが苦手なようです。

複数の資料を読み比べ、目的に応じてどれが必要な情報なのかを確かめたり、情報どうしのつながりや関係を考えたりしながら読む意識が大切だと感じました。

【文章を読んで活かすことは得意、条件を満たし、グラフを活用して記述が苦手】

また、解答類型を見てみると、たとえ正答していても、文章資料よりもグラフを用いて記述した割合が比較的低め（本校7、全国10%）でした。ひよっとすると、文章から適切な言葉を選んで書く方が取り組みやすく、グラフから読み取って記述することの方がやや困難で、避ける傾向があるのかもしれません。

【目的に応じ、書き表し方を工夫して表現する力を育てる】

昨年度実施された国語では、「事実と感想、意見とを明確に区別できず、考えを伝えるための書き表し方の工夫に課題」が見られました（令和6年度「結果（概要）」）。今回の結果だけに囚われず、これまでの調査の問題趣旨と結果の分析をもとに、子ども達にどんな学力が求められ、どこに難しさがあるのかを意識して継続的に指導にあたるよう心掛けていきたいと思います。



ことばで みち あんない

2年生が「ことばでみちあんない」という学習に取り組んでいました。国語の対話の練習です。どうやら、公園で待ち合わせ場所を電話で伝える際に、行き違いがあったようです。

何が行き違いの原因だったのか、2～3人の小グループで話し合っていました。教科書に載っている地図を、隣の子に指し示しながら、自分が思う原因を説明し合っています。

「バラ園をしばらく行ったら、右に曲がるよって言っているけど、曲がるところが2つもある。」

「手前と奥のどちらかわからない。」

と、話し合いの結果を報告してくれました。「曲がるところが2つ」「手前」と「奥」という表現が出てきたのが素晴らしいと感じました。

このあと、行き違いがないようにするには、どう言い換えたらいいのか、再び話し合いです。

「2つめの角で」「奥の曲がり角で」という表現のほかに、「どんつきで右に」という表現も出てきました。「どんつき」は関西地方の表現ですが、さまざまな表現を駆使して伝えることを楽しんでいる雰囲気があり、見ている方も楽しくなってきました。

